

KGU 本日のメニュー - CASA Project

いらっしやいませ。

本日は暑い夏にぴったりの本場のエスニック料理フルコースをご用意しました。

最後までたっぷり、おいしくお楽しみください。

そとでは、ごゆっくりどうぞ。

CASA一同



前菜

Our mission
What's the CASA Project?
2011年まで4年間の歩み



メイン

Our change
営業範囲の拡大
地域との結びつき
岡町商店街との絆



デザート

経済的アプローチ
社会的アプローチ
環境的アプローチ
Our future



料理についてのご質問、リクエストなどございましたら
お気軽にスタッフまでお申し付けください。

私達 **CASA Project** は、日本で生きづらさを感じている

日本在住のアジア人女性の居場所作りや、自信回復、

経済的・社会的自立を促すために活動しています。

本日の調理補助
Hanako Watanabe
Narumi Ono
Yumi Meshima
Daimu Yoshida

味見係 from KGU
Mr. Kei Shiho
Mr. Joe Takeda
Mr. Akio Kawamura

買い出し係
Mr. Tomoaki Takeuchi
Mr. Yuji Kanemori
Ms. Yuri Yoshida
岡町商店街の皆さん

ケータリング、お弁当、パーティーなど承ります。ご予約はこちらまで。

大阪府豊中市中環塚2-27-8 環塚ショッピングセンター2F

CASA Project -2013-

CASA's Mission



日本社会で言葉の壁、就労難、差別、病気など様々な困難を抱えて生活をおくっている滞日アジア人女性。彼女達の居場所づくりや、自信回復、経済的・社会的自立を就労の場カフェ「CASA」を創出することで達成する。

CASA（カーサ）プロジェクトは2008年7月に始まりました。

現在、タイ、フィリピン、中国、台湾の4人のアジア人女性のお母さんたちと26名の学生で活動を続けています。女性たちの強みである母国料理の調理スキルを活かし、エスニック料理を提供する活動を展開しています。



1.屋台



2.ケータリング



3.カフェ

NPO,大学、企業のCSR活動等と言った場面でエスニック料理屋台を出店する活動を行っています。

大学の懇親会やフォーラム、パーティー、会議と言った場面で10人~60人規模での料理提供を行っています。

4人のアジア人女性が週替わりで自分の国の家庭料理をワンプレートランチで提供しています。

4.ミーティング

4人の女性、学生、アドバイザーを交えて月に1度以上のミーティングを行っています。事業運営から提供するメニューまで全員で意志を共有します。

CASA's Story 2008~2011

CASA project 開始当初、4人の滞日アジア人女性たちの口癖は「自信がない」「私には何もできない」でした。その背景には、『就労の困難』、『それに伴う過度の自信喪失』、『極端に狭いコミュニティ』という問題がありました。

そこで私達は、外国人女性の自信の回復に重きを置き、収入を生み出すための段階的なステップを踏むことができる就労の機会をつくることに決めました。2008年度から始めた屋台、ケータリング、2010年度からカフェ営業を通して、彼女たちは接客スキルや調理スキルを身に付け、また自分の母国料理を提供することでお客さんが喜んでる姿を見て、自信を回復していきました。

2012

~2013

CASA's change ~兵庫から大阪へ移転 それに伴う CASA と女性の変化~

4年間の活動を通して積極的な姿勢に変わってきた4人の女性たちと共に、活動の継続と女性の自立を促進するために、経済面にも重きを置いて活動すること決意しました。

そのために、営業日を増やすことができ、広いキッチンがあり、強い地域のつながりを作れる場所へ、CASAの拠点となるカフェの移転を決意しました。



①「営業範囲」拡大

(前年度との比較)

カフェ：週1⇒週2&夜営業
ケータリング：年11回⇒92回
屋台：年12回⇒31回
お弁当事業開始

②「地域との繋がり構築」

地域のお祭り、商店街のイベントに積極的に参加しました。地域の人々とのつながりの構築を構築することができました。



女性の収入UP!

1人の平均年収が12万円⇒37万円
1人の女性はひと月で最高8万円の収入をえることができました。

これは、個人の働くスキルが上がり、またそれが社会で認められたことを意味します。また大きな責任感や自信が芽生え、自立への大きな一歩となりました。

女性のコミュニティが広がる!

「学生」「お客さん」以外に新たに「地域住民」とのつながりができました。毎回挨拶をしたり、困った時は相談をしたり、メールのやり取りをしたりと女性の日々の活力となっています

CASAの移転先『岡町商店街』への影響

岡町商店街は大阪府豊中市に位置する高齢化が進み、勢いなくなってきた商店街です。CASAが移転したことで女性と学生が商店街を盛り上げ、また若者にブームのエスニック料理のお店であることから、若年層の行き交いが増えました。商店街の方々もCASAの活動を応援してくださり、お仕事の依頼を頂くことも度々あります。このつながりは、今後の活動の継続や発展に良い影響をもたらします。

CASA's Future

現在活動する4人の女性達がCASAでのゴールに向かうこと、

また一方で、同じような課題を抱える女性を迎え入れることを目標に準備をしています。

台湾人のYさんは、自分のお店を持つ為に、更に料理の腕をあげることや常連さんを増やすことに奮闘しています。

中国人のFさんは、CASA以外での職を見つけるためにレストランのアルバイトの面接を受けてみたり、1人で料理教室を開いて次なる可能性を模索しています。

フィリピン人のJさんは、日本で元気に暮らすアジア人女性のモデルケースとなり、

新たに仲間になるであろう女性の手助けをしたいと語っていました。

それぞれの夢やゴールは違いますが確実にそのゴールに向かって歩いています。

そして現在、5年前の4人と同じような境遇の韓国人の女性がCASAの仲間になろうとしています。

経済的要因



- ・ 事業収益が
98万円→365万円
約3.7倍に！
- ・ 女性の一人あたりの収入が
12万円→37万円
約2.5倍に！



社会的要因



- ・ 日本アジア人滞日女性の就労問題することで彼女達の自信の回復
- ・ 商店街の地域活性化



環境的要因



- ・ リユース食器のみを使用した屋台運営
- ・ イベントの際は再生利用な食器を使用
- ・ CASA通信にも再生紙を利用



Annual activity

- 8月 岡町夜店大会
- 9月 KGUオープンキャンパス・夏合宿
- 10月 豊中わくわくフェスタ・KGU生協祭・西淀川多文化フェスタ
- 11月 中播磨ふれあいフェスタ
- 12月
- 2月 愛に恋い恋岡町商店街
- 3月 ゆめのはこ
- 4月 環境交流センター
宝園化オープンガーデン
- 5月 新入生歓迎イベント
- 6月 移住連フォーラム
- 7月 七夕フェスタ



人種、ジェンダー、差別、偏見、、、

日本社会では社会的弱者として排除される人達が多く存在します。

CASA は家を意味します。

支援する一される を飛び越え社会的弱者と呼ばれる人たちにとっての家族となり、共に働き、共に成長し、共に歩む。そんな想いをこめて私たちはカフェを運営しています。

働く人、常連さん、ふらりとやってきたお客さん。すべての人にとっての家でありたい。

それが、私たちの想いです。

Continued on page 2